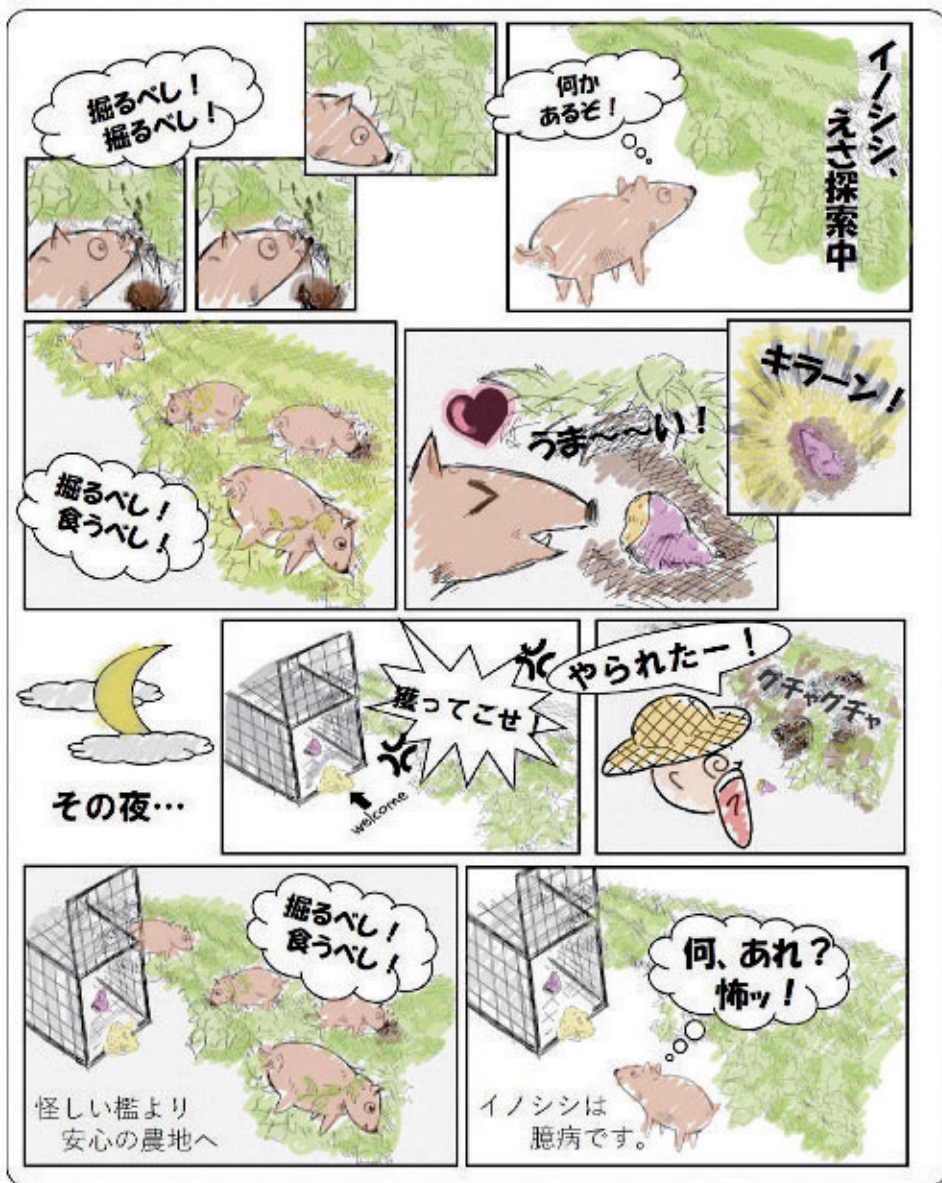


守ってから 捕獲すべし！

日野郡鳥獣被害対策協議会
実施隊チーフ 木下卓也



イノシシの被害が発生したら、みんなが思うことは一つ、「獲ってこせ!」。でもイノシシの側から考えれば、安全に安心して人の農地で食べていたのに、突如として、慣れぬ檻が置かれた状況です。イノシシは実はかなり臆病な動物です。見慣れないものは警戒して近寄りません。檻にどれだけエサを入れても、安心して食べることができる農地が隣接していたら、檻ではなく、農地で食事をするのは当たり前…。では、どうすればよいのでしょうか?

答えは簡単なことです。農地に入れなければ良いのです。イノシシが農地に入れないように柵をして、仕方なしに近くにあった怪しいけど食べ物のある場所、つまり、檻へ誘導してやればよいのです。農地で食事をしていたのに入れなくなると、必ず柵を突破しようとしてします。でも突破する労力より、怪しい場所で食べるの方が楽であれば、必ず檻の中での食事を選びます。柵の外でしっかり捕獲をすることで、柵も壊されずに長持ちします。

①しっかり農地を「守る」→②柵の外で「捕まえる」→③柵が長持ちする。この順番が大事です。

「獲ってこせ!」の前に「守ってこせ!」。農地に合った守り方は、お気軽にご相談ください。

同日野郡鳥獣被害対策協議会 電話:0859-72-1399



表紙写真

タイトル:春爛漫

撮影者:田邊 元己(日南写真友会)

撮影者コメント:毎年春になると、あたりまえのように、きれいな花を咲かせて多くの人の目を楽しませてくれた、生山の川沿いに植えられた桜の老木。近年、頻繁に発生する自然災害対策として、護岸、道路の嵩上げ工事のため伐採される事となりました。幸いにも工事の見直し等で、二年寿命が延び、昨年が見納めという事でどうか分かりませんが、今までで一番のきれいな花を長期間にわたって楽しませてくれました。長い間、多くの人を楽しませてくれた桜の老木に感謝です。